

本島：海事史の要となる場所

本島は、瀬戸大橋の西、香川県沖の瀬戸内海にあり、丸亀市からフェリーで 35 分で行くことができます。本島は塩飽諸島 28 島の中で 2 番目に大きく、人口が最も多い島ですが、住んでいるのは 400 人ほどのみです。島には輝かしい歴史があります。16 世紀から 18 世紀にかけて繁栄した船乗りの中心地でした。

この歴史は、本島東部の港町笠島ではっきりと見ることができます。19 世紀初頭から 20 世紀初頭にかけて建設された約 100 棟の建物が残っているのです。三方を丘に囲まれた町は、狭い谷のふもとを占め、格子状に配置されています。その通路には、商家の伝統的な家屋が並んでいます。控えめなものもあれば、造船や大工仕事で財産を築いた世帯の大邸宅もあります。笠島は、伝統的建造物群保存地区に選定されています。江戸時代（1603 年～1867 年）後半に建てられた商家である真木邸を含めた 3 棟が一般公開されています。真木邸には、町の歴史や保存について学べる施設もあります。特徴的な外壁は、黒いタイルの上に厚い白い漆喰を重ねたダイヤモンドパターンであるナマコ壁で装飾されています。この装飾は元来、土壁を水から守るために開発されました。

溪谷の底から 15 分かけて標高 110 メートルの遠見山の山頂まで登ると、笠島の街並みを見渡せます。この美しい景観スポットからは、集落や、島が点在する海の景色を眺めることができます。瀬戸大橋の全長もここから見るすることができます。